

担当教員名	鹿野 緑	所属 (学部学科)	国際教養学部国際教養学科
実施年度・クォーター	2021・Q3		
授業名	南山	Special Topics: Sustainability Studies C(Social Studies) <国際科目群>	
	パートナー	Japanese	
カテゴリ	ベーシック COIL	<input checked="" type="checkbox"/> アカデミック COIL	PBL COIL
パートナー教員名	Tomoe Nishio	パートナー所属	University of North Georgia
参加	南山	31名	
学生数	パートナー	16名	
使用言語 (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 主に英語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	その他言語 ()
使用ツール (複数回答可)	Facebook	<input checked="" type="checkbox"/> LINE	Skype YouTube <input checked="" type="checkbox"/> Canvas その他 (<input checked="" type="checkbox"/> Zoom)
交流内容 (概略)	南山側の国際教養学科科目 Special Topics の教科書を共有し、互いに読み込んで1) 事前に Discussion Questions をたてる、2) 授業内 Zoom Meeting にて英語で話し合いをする、3) その Reflection Paper を書くことが主な流れであった。日本語の交流は、UNG の学生の Presentation の題材やデータ提供の位置付けで授業外に行った。		
期間・回数	毎週の交流 (学生グループの自主的なもの) と、1週間おきの Zoom Meeting (60分ほど) をメンバーを変えながら行った。		
評価方法	COIL に基づくタスクはコース成績の50%をしめた。Discussion Questions, 毎週の Reflection, Discussion 内容にそれぞれ Rubrics を作り評価した。		
コメント	基本的な活動を固定グループで行ったが、自主的に日本語・英語で交流をしていた様子があった。加えて、2週間に一度共同授業を行い、その中でメンバーを代えてなんども議論ができるような工夫を行った。最終回ではそれぞれに名残を惜しむ姿がみられ、COIL の「出会い」がすばらしいものであったこと、日米の違いはあっても「若者」としての日常には共通点があると気づいたなど、コメントがあった。		